

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691500023		
法人名	医療法人 十全会		
事業所名	グループホームさざんかの宿		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地 (電話)088-672-1022		
自己評価作成日	平成22年02月01日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3691500023&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのペースに合ったサービスを提供し、ストレスの少ないのびのびとした穏やかな生活の中で、認知症の行動障害を軽減するようにサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園パークの隣に位置し、医療法人を母体とする事業所である。「自分の家なのだから、好きなように過ごせたらいい」と、管理者、職員は利用者個々に合わせたサービスの提供を心がけている。利用者が楽しく過ごせるようにと法人主催の芸能やスポーツイベントを開催している。年間の職員研修計画があり、内部、外部研修ともに充実しており、サービスの質の向上を目指している。また、母体病院との医療連携体制ができており、安心なケアに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込んでいる。運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有して実践している。	利用者が住みなれた地域の中で、その人らしい生活ができるよう継続的な支援を重視した理念となっている。また、理念はホーム内のわかりやすい場所に掲示され、管理者と職員は理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入し、地域の祭りの際には御輿が来ている。また、地元中学生の体験学習を受け入れ、交流に努めている。	地域住民として自治会に加入し、祭りの御輿が来てくれている。また、地元中学生の体験学習を受け入れるなどしている。	利用者の暮らしぶりやケアの様子を理解してもらえよう、ホームから地域の行事に積極的に参加するなどして地域に向けて情報を発信し、双方向的な交流に取り組みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の高齢者の暮らしに役立つことはないかを話し合っている。また、人材育成への貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから、質問や意見、要望を受け双方向的な会議となるよう配慮している。前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を話し合いサービスの質の向上に努めている	運営推進会議は、家族や町福祉保険課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、病院理事長、職員で構成され、事業報告や地域との交流状況などを話し合っている。平成21年4月に開設してからの開催は、7月と12月の2回だけとなっている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、外部の方の意見をもらい、サービスの質の向上に繋がりたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会などに市町村担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズの具体的内容を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	機会あるごとに町担当窓口で事業所の現状等を伝えてアドバイスをもらう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ストレスを軽減できる介護サービスを心がけ、玄関にはブザーを付けて安全面に配慮し、外出への要求があれば散歩を行っている。	日中は玄関には施錠していない。センサーを設置して安全面に配慮し、利用者が外出しそうな時には一緒について行く等している。管理者と職員は身体拘束による弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は勉強会やミーティング等を実施し、虐待とは暴力的な行為だけでなく、暴言や無視、心理的虐待、必要なケアの放棄等が含まれることを理解し周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開き理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約したりする際は、文書と口頭で十分な説明を行い、理解と納得が得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に公的な苦情相談窓口があることを紹介している。意見箱の設置を通して、より多くの相談や苦情を出してもらえる配慮をしている。	家族には来訪時に何でも言ってもらえるよう、雰囲気づくりに配慮している。出された要望等についてはミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞く機会をもったり、意見を言いやすくしたりする等工夫し、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。	月に1回はミーティングを行い、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の資格取得に向けた支援を行い、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。また研修報告は、すべての職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや事業所との交流や交換研修が行えるように計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始め、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族等の立場に立って、家族等の気持ちを受け止めたり、家族等の声に耳を傾けたりしながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ることや、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄りそいながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上であるよう、地域に暮らす馴染みの知人や友人等が来訪してくれたり、電話連絡を取り持つなど、継続的な交流ができるように働きかけている。	併設事業所を利用している友人がホームに立ち寄ってくれたり、電話で連絡しあったりするなど継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の助け合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、全職員が共有できるようにしている。また利用者同士の助け合いや、気持ちの支え合いができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境や支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から真意を推し測ったり、それとなく確認したりするようにしている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	意志の疎通が困難な場合は家族から情報を得る等し、利用者の立場に立った話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、考え方に関する情報を、本人と家族、その人の昔をよく知る人から教えてもらい、全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状を理解し、不安や混乱が見られる時は十分に話を聴いて、わかりやすく説明し、安心して過ごせるような関わり方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族、必要な関係者と話し合い、全職員の気づきや意見を取り入れて作り、全職員が計画の内容を知ることができている。	利用者や家族の意向を聞き、職員の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。定期的および状態の変化に応じて随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の、日々変化する状況や要望に応じて、必要な時に必要なサービスを臨機応変に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員等と支援に関する情報を交換したり、協力関係を築いたりしている。御輿のボランティアや学校職業体験学習等を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。必要に応じて職員が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化などに気付いたことがあれば、直ちに看護職へ報告し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるように家族等と相談しながら、病院関係者に本人に関する情報の提供やケアについて話し合い、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて、医師と職員が連携をとり、安心して納得した終末期が迎えられるように随時、意志を確認しながら取り組んでいる。	同じ敷地内に協力病院があり、緊急時の対応ができる体制が整っている。重度化した場合や終末期のあり方については、随時家族等と話し合い方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や骨折、誤嚥、意識不明等の対処方法、緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、消防署の協力を経て避難や消火器の使い方などの訓練を行っている。緊急時には、ボタン1つで消防署に通報できるようになっている。	マニュアルを作成して、年に2回は訓練を行い、県防災センターでも全職員が研修をしている。また、スプリンクラーも設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要なときはまず、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをしたりするように努めている。	誇りやプライバシーを傷つけないよう、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者とは過ごす時間を通して、本人の希望や関心、嗜好を見極め、それをもとに日常の中で本人が選びやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディションや様子を見ながら、本人の希望をたずねたり、相談したりしながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れ等に対しては、プライドを大切に、さりげなくカバーしている。身だしなみは本人の自己表現の一つとして、本人の好みで整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や味付けについての会話をしたり、利用者と一緒に採ってきた畑の野菜を使って一緒に調理をしたりすることで、楽しく食事ができるように雰囲気づくりも大切にしている。	併設病院の給食を利用し、主食はホームで炊飯している。盛り付け等は利用者と職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが、一日を通じてどの程度の栄養や飲水量を取れているのかを全職員が常に意識しながら関わっている。また、一人ひとりの状態や力に合わせた調理方法、味付けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声かけや見守りを行い、できない方には毎食後のケアを行う等、本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホームさざんかの宿		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を可能にするために、行きたい時にトイレに行くことができるよう、本人に合わせて、紙パンツやパット類を検討している。	チェック表を活用してパターンを把握し、訴えない方にも時間を見計らってトイレに誘導している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給と繊維質の多い食材の提供に心がけている。また、腸の動きを良くするために、散歩にも誘っている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入浴していただいている。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。	週3回、入浴を行っている。なるべく一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援を試みている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等、配慮している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態の変化があれば、その情報を医師に伝え、必要に応じて処方内容の見直しが行えるようにしている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣やみかん狩り等、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて戸外に出かけられるよう、支援に努めている。歩行困難なケースでも、車や車椅子等を利用して戸外へ出かけられるように、支援している。	近くに公園があり、天気の良い日には散歩に出かけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族ごとに様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額でも金銭を持っていただけるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話をかけたり手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、安らぎ、居心地よく過ごせるように、また、自宅の延長として、自分の力で、その人らしく過ごせる場、居心地のよい場となるよう配慮している。	リビングには季節感のある折り紙の雛人形が飾られている。また、ゆったりとしたソファが設置され、利用者同士の憩いの場となっている。しかし、共用のトイレや浴室につながる廊下は薄暗く、寒さを感じられる。	廊下の照明等の工夫、および時間帯や季節に合わせた温度管理に配慮されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、ソファ、椅子等を置き、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら寝具やタンス、写真などを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはトイレや洗面所、キッチンが備え付けられている。馴染みの家具を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印を付けたり物の配置に配慮したりしている。		